

たまがわ5  
**ひろば**  
ミニコミ紙

号者局 17番 行務 第5事  
平成元年7月20日 武蔵野市  
平川五郎 出所  
TEL 700-4120



上野賢四郎 有馬 郷子  
中国のあの悲惨な天安門事件によって、日本が世界の他の国々と比べて、どんなに平和な国かということに改めて知らされました。

偶然、平和な国に生まれ私達は、ただその平和の上にめぐらをかいて座っていたらいいのでしょうか。平和な国に住む私達は、困っている国々の手助けをしてあげてほしいと思います。しかし、言語だけでなく、生活様式、文化などの異なる国々の手助けをするためには、世界の国々をもっとよく知る必要があると思います。

突然としていますが、私の将来の夢は、外国関係の仕事に就くことです。そして、いろいろな国のことを知り、困っている国の手助けの少しでも力になりたいと思っています。一人でも多くの人が住みやすい平和な世界になることを願っています。



**衣装から洋装へ**  
用賀賢四郎 伏屋いつる(88)  
昭和二十年後半から洋裁が盛んになり、女性の服装は和服から洋服へと移っていき、私が洋裁を始めた昭和十五、六年頃は、中年の女性が赤い服を着たりすると「突飛でもないし」と言ったものです。

それが、今の中年女性の華やかさはどうでしょう。一方、日帝着からすっかり遠ざかってしまった和服ですが、生活にもっとゆとりが出てくれば、日本女性は着続けていくと思います。そして、嫁ぎゆく嫁にもさっと二、三枚は揃えることも忘れないでしょう。(談)

# 昭和から平成へ

**空地にビルがー**  
玉川台目 田辺 明子

私の子供の頃、この近辺もまだ沢山の空地があり、どんなに遊べたことが多かった。時が過ぎるにつれ、次々と住宅が建ち、空地が消えていきました。その住宅ですら、今、ビルと変わって所も多くあります。たった三十年の間の変化はすごいものです。二十年前引越された方が二年前来られた時、まるで浦島太郎だと言っておられました。



近々、用賀駅前に超高層ビルが建つとのこと。益々変わり、三十年前の面影もすっかりなくなりそうです。ふっと、寂しくなります。



**たべもの**  
玉川台目 池田登志子

昭和生まれの昭和育ちのものにとって空腹の時代から、世界中のあらゆる食べ物が味わえる今の生活をくらべ、幸いっばいですね。アルメの時代といわれ、すが食べる贅沢なんて多寡が知れています。健康で充実した生活を送るために、毎日新鮮な食べものが入手できることは、大変重要なことだと感じています。

日本の歴史の中で、平和がこんなに長く続いたことはないのだそうです。精一(ばい)、この環境をエンジョイしたいと思っています。

# 女子生活

**女子生活**  
瀬田三目 及川香代子

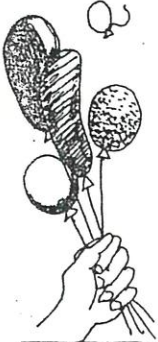
昭和の初めの頃、どの小学校の校庭にも三宮金次郎の銅像があり、質実剛健が当時の教でした。次第に戦時色が濃くなると、筑後の「少国民」として愛国心が強調されました。

戦後は一転して民主主義教育となり、六・三制や男女共学教育改革があり、進学率も高まりました。一方、受験競争が激化して塾や偏差値に追われ、町で遊ぶ子供も見かけなくなり、地域の教育力も失われたと言われています。これからは、人間関係を大切にしたい教育が見直されていくことと思われれます。



**あゝ今頃**  
鈴木 武一

サテそれからが大変だ、廃墟の中から立ち上がり、敗戦国だよニッポンは、ヤッて来ました進駐軍GHQと申します。アレもいけない、是もダメ、旧法ドン／＼切られ、女は尊重されるけど男はみんな丸坊主、プーンでデマに迷わされ、食糧不足で買出し、物々交換マシ成金。今日もあしたも復員兵、悲劇のろつぽ引揚船、戦死が生き返った、アチコチ間違ひ聞き違ひ、新田キリ換え六三制、PTAやらDDT、ストだ安保だ血のメーデー、講和条約おすはれて、新憲法の制定だ、民主ニッポン誕生、テレビ時代の幕あけて、オリンピックがマッテ来た、新幹線が突っ走り、続いてひらいた万博は、経済成長よろこんで、昭和元祿さわぐうち、石油ショックを乗り越えて、金権政治だロッキード、日本列島改造論、出来ないうちに暮らして、出来たビル街60階、その名も浅いサンシャイン行革、民営、新時代、日航、J.R. N.T.T. 栄枯盛衰二万日、昭和はかえらぬ旅鴉、世は平成となりました、平和ニッポン高らかに、新天皇の夏をゆく。



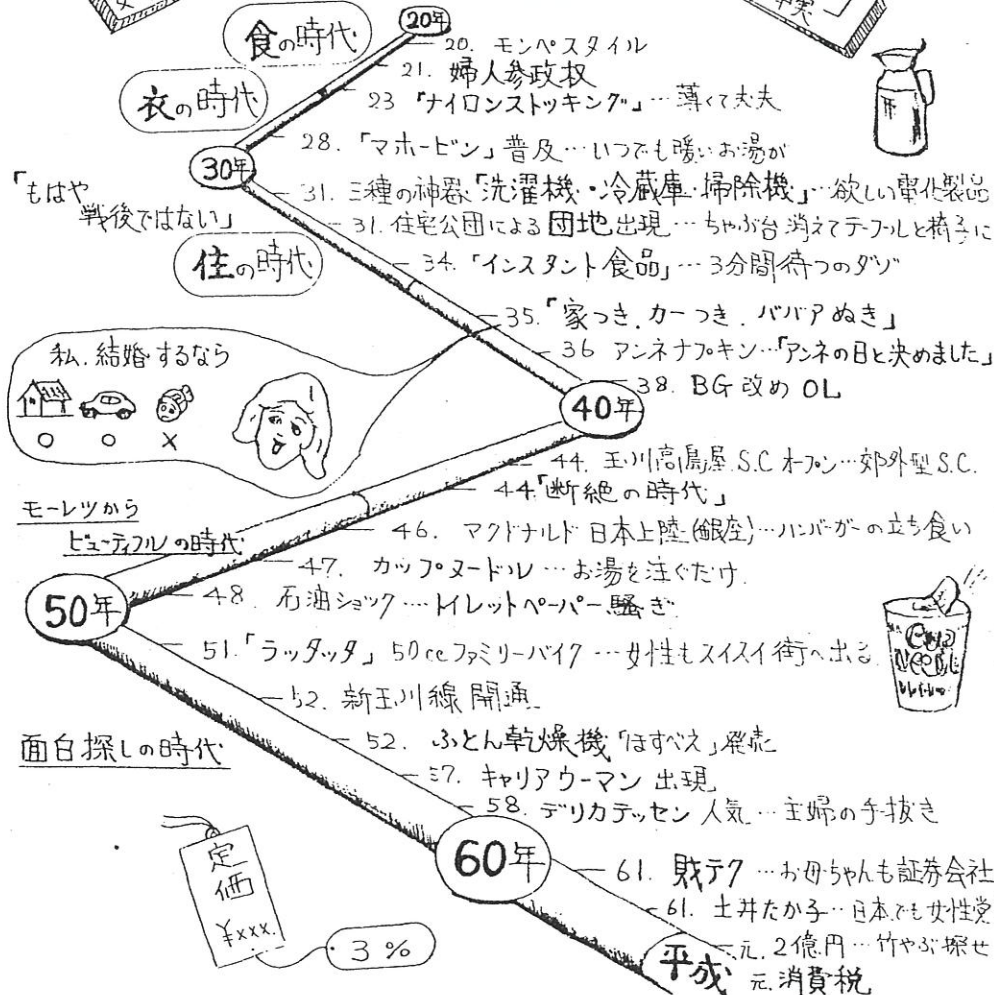
“ひろば”ご希望の方は 玉川第五出張所においてありますので どうぞ。

回覧



# 昭和から平成へ

## キーワード



サテ、皆さん これから何が欲しい？

(作図 鈴木 隆)

## 郷土紹介 碓氷ガク

新住居表示により区内にも色々と新しい地名が誕生しました。現在碓氷ファミリーパークがある所が碓氷公園」と言う地名は、中でも特殊な名前の一つです。

そして、この地の変遷を少し遡ると、又、身近な昭和史の一頁となります。

昭和十五、六年、紀元二千六百年の記念行事が続く。この周辺の土地二十三万坪が、軍の首都防衛緑地計画の一端として東京府により強制買収されました。太平洋戦争の戦中、戦後、その大半が食糧増産の為畑に転用された時期がありますが



昭和三十一年、この緑地の一部は碓氷ゴルフ場(東急が委託経営)と変わります。ゴルフ場時代は十年程続き、今度はこの一面に東名高速道東京インターが出来ることとなり昭和四十一年春碓氷ゴルフ場は閉鎖。同五月子供の日に、跡地は碓氷ファミリーパークとして一般市民に開放。都内でも有数の緑多い大公園となりました。今、公園内には世田谷美術館も完成。秋には、かつてゴルフファークが球を追った芝生の上で芝能(野外能)も演じられています。

碓氷ファミリーパークの歩みの中にも戦争から平和へと世相の移り変わりを窺い知ることが出来ます。(飯田)

## SPのイラスト 読者のこゑ三題

A男さんより:

いつも一生けんめいに地域情報、苦心してお送り頂き感謝しています。2、3注文します。

昔はこうだった、という記事が大変多く見受けられます。

新住民も当時の数倍に増えた苦。そろそろこれからは、どうするかなど、展望を見つめるものを入れては。B子さんより:

女性の参加する記事を。



## あしがき

みなでま方に喜ばれる紙面づくりを目指して編集委員一同努力を重ねてまいりましたが、読者の皆さまから数々の貴重なご意見や励ましを頂きました。

紙面を借りて厚くお礼申し上げます。

興女性の声をとのことでしたので、今回は昭和の後半を女性の視野に立った記事として特集してみました。

多勢の声を反映させる為にも、若い人に参加していただき、地域とともに心のかようネットワークを広げて行きたいと願っています。(池田) 筆料原



夏休み 事故なく過ごしましょう

